
雨の日に咲く花

ネピア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨の日に咲く花

【著者名】

ネピア

N1577F

【あらすじ】

雨の日に幼馴染みの女の子に強引に授業をサボらされてだべつて
いるといちゅうの出来事

「ザア——」。

空は晴れているのに、

雨ばかり降り続いている今日は、何かありそつた気がする。

いつも学校では、友達と一緒にいるのに今日限っては幼馴染みで一
口上の女の子

「藍沢美耶」（あいざわみや）と一緒に授業をサボってしまった。

一緒にサボったと言うより、彼は

「伏見円」（ふしみまどか）は、捕まつたと言つのが正しいだろう。

1時間前の事

「ねえ——円——授業サボりたい。」——という美耶のわがままで私腹の一時を邪魔された円は、仕方なく一緒にサボるはめになつた。

「この学校は警備がなつてない——！」——いきなりの一言に疑問の色が隠せない円は、恐る恐る手元を見るとなんと図書室の鍵が握られていたのだ。

「先輩何持つてるんですか！——いつパクつて来たんですか！」——美耶は首をかしげるだけで答えは出ませんでした。

図書室には先生も居なければ立ち寄る生徒も居ません。
何故なら旧校舎の中にあるからです。

美耶と円は家が向かい合いで小さい頃はよく遊んでいたらしい。
しかし歳月がすぎて行く中円と美耶はお互いに意識するようになつた。

「あのさ——」

「あのね——」

声がかぶり戸惑い

先に美耶が口を開いた。

「最近部活はどう?」「

聞く質問を間違えたと言わん許りの間が空き円は耐えられずに噴出した。

「俺部活やつて無いし（笑）」

美耶の顔が赤くなつていくのがわかつた。

「先輩は好きな人とかいる?」この様な空間ではこの様な質問が普通だらう。

「てゆうか先輩つて呼ぶの一人しかいない時は止めてつて言つたじやん。」美耶は円から先輩と呼ばれるのが嫌らしい。

しかし円もいつものように美耶と呼び捨てにするのは恥かしいらしくかたくなに拒否している。だが円は恥かしいからと言う理由だけではなく、ただ美耶の事を一人の女性として好きなのだ。

だから今日一緒にサボる事になつた時にチャンスはここしかないと思つたのだ。

「私?」

私はいるよ。ずっと前から好きだつたやつ。円はどつなの?」

帰つて来た返答に円はショックを隠し切れなかつた。

「いるよ。俺もだいぶ前から気になつてたやつがいる。

そいついつも俺の事ガキ扱いして何が楽しいのかすぐに紹介を焼かれて正直ウザかつた。」美耶は口を半開きにして聞いていた。へえ、アンタがそこまで言つた初めて聞いた。でその子に口くるの?」

興味津津に聞いて來たので円は言つてやつた。

「口くるよ。今から……」

美耶は何がなんだか解らずに黙つていた。

「ずっと好きだつた。」

これからも美耶と一緒にいたい……

だから……付き合つて欲しい……」

とうとう言ってしまった。

美耶に好きな人がいる事を聞いたのに言ってしまった。
後戻りはできない。

「…………好きだよ。

その言葉ずっとずっと待つてた。」授業の終了のチャイムがなり、
晴れているのに雨と言ひ変な天気の中に新しい花が咲いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1577f/>

雨の日に咲く花

2010年10月20日19時22分発行